

⑥ 相模原台地の相模原公園を訪ねる

催行日：2017.6.14（水） 集合：地下鉄中山駅改札口（コンビニ前）

コース：JR 横浜線古淵駅 女子美術大学行（2番乗り場）9：20 → 女子美術大学下車 → 相模原公園内散策（フランス庭園～木漏れ日の径～ショウブ園など）→（スポーツ広場）大正坂（段丘崖を下る）→ 道保川→ 下溝八幡宮-清水寺 → 鳩川と合流 → 東峰八幡宮 → 相模川展望広場 → 下溝駅解散（JR 相模線）→ 橋本経由中山駅へ向かう
C 班はショウブ園を見学後サカタのタネの熱帯植物園を鑑賞して女子美大前のバス停より古淵へ戻ります。 注：帰りのバスの時刻をチェックしておくこと！

行き方：中川駅 8:29～8:32 センター北 8:35～8:43 中山駅 8:53～9:12 古淵駅 9:20（バス）
女子美術大学（終点）9:49 着



本日の散策は相模原台地に広がる県立相模原公園・市立相模原麻溝公園を訪ねます。花一杯のフランス庭園やショウブ園も見頃を迎えていることでしょう。古淵駅前のバスからは30分ほどで終点の女子美術大学前に到着します。相模原麻溝公園の花時計を横切り、まずは眼前にそびえたつ展望台へ上ります。



女子美術大学前バス停



大学入り口



展望台に向かう道



展望台(グリーンタワー相模原)

38mの展望室からの360度の見晴らしは晴れていれば目の前に横たわる丹沢山塊と大山（富士山はその陰ですで見えません）、目を転じればスカイツリーも遠望できます。また公園の外に広大な相模原沈殿池が望めます。エレベーターを降りて出た先にトイレもあります。その先の公園管理事務所で資料などをゲットしたらアーチのある広場へ入り右手の橋を渡ります。

展望台からの大パノラマ



ゆっくりと階段を下って、眼前のサカタのタネ グリーンハウスの2階の見晴らし場へ上ると目の前に美しいフランス庭園が広がっています。奥行350mほどのシンメトリックに作られた庭園は花で埋まっています。このグリーンハウスにある熱帯植物園（100円）はお薦めですが今回はパス、C班は帰りに見学します。そしてこの庭園の右手の奥にある「木漏れ日の径」に入ります。新緑に包まれての森林浴を堪能しましょう。



サカタのタネ グリーンハウス（熱帯植物園）

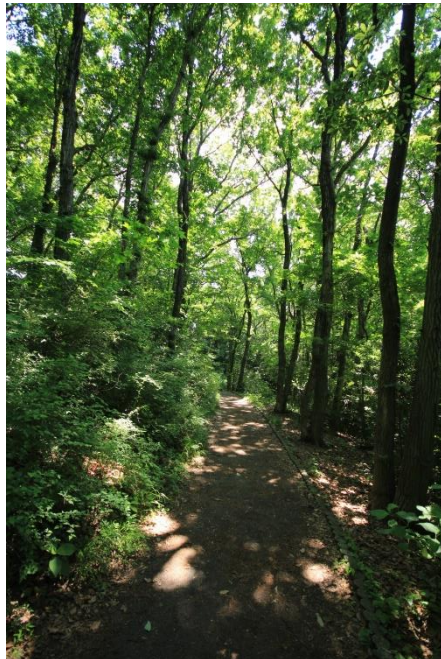
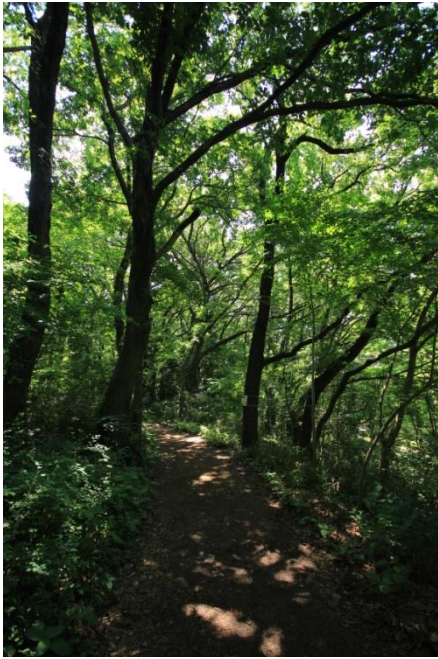


2階 展望室からのフランス庭園全景

突き当たって左に出ればフランス庭園の終点、噴水のある大パーゴラに出ます。ここでしばらく休憩しながら左右に広がるメタセコイヤと庭園を楽しみます。

木漏れ日の径

大噴水



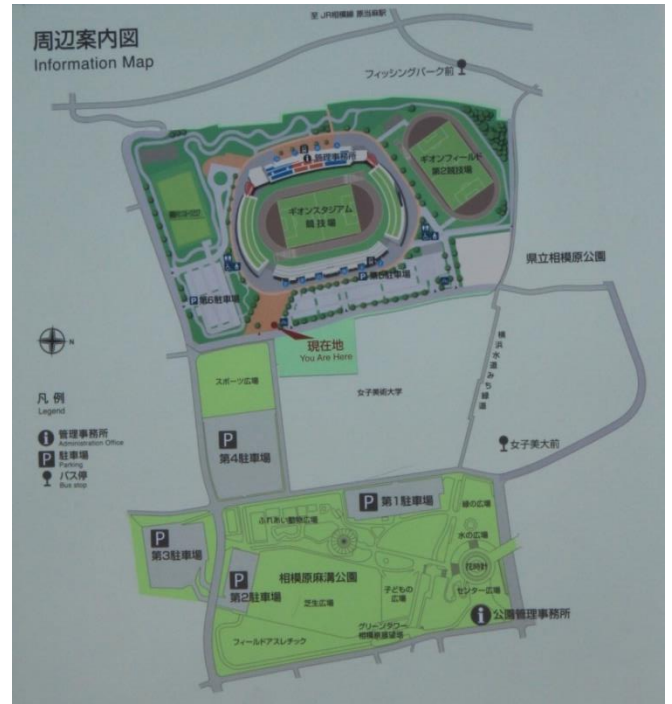
また奥の散策路の入ります。その少し奥には県道相模原町田線が走っています。直ぐに紅葉の丘の先にある日本庭園（周遊の庭）を見て見本庭園に入りましょう。右に行けば「ユリノキゲート」があり、ちょっとした軽食を頂けます。トイレ休憩も結構でしょう。そして左手に広大な芝生広場を見て「きらめきの流れ」に沿って進み、水無月橋でバス通りを超えると「しょうぶ園」に到着です。

日本庭園

しょうぶ園



C班はグリーンハウスに戻り、熱帯植物園を鑑賞して朝方のバス停から古淵の駅に向かいます。AB班はすぐ近くのバス通りに出て右に進みます。右手にスポーツ公園を見て直進、すぐに県道相模原町田線に出て右折、右手のスポーツ公園を過ぎると三段丘の下りに入ります。この大正坂はカーブのきつい樹林の生い茂った坂道です。下りきったところで道府川にぶつかります。川に沿って下ります。川沿いの遊歩道には可愛い花々が咲き競っています。しばらくくすると川を跨ぐ橋があります。近橋を渡った正面に階段があり、その先に下溝八幡宮、その先に清水寺があります。



麻溝公園競技場(相模原ギオンスタジアム)の案内板



大正坂の急カーブを下ります



道府川の遊歩道



下溝八幡宮

さらに下っていくと鳩川と合流します。その先に JR 相模線の線路が見えて来ます。

線路を渡って広い道路の先が急な崖となっていて、その向こうが相模川の河川敷となっています。広い河川敷の中を滔々と流れる相模川、その向こうに目る丹沢山塊を眺めていると、これまでの疲れが吹き飛んだように感じられます。時間があれば少し先の階段を下りて三段の滝を見てみるのも良いでしょう。さあ1時間に2本の相模線に乗り遅れないように急いでください。下溝駅からは橋本駅まで行って横浜線に乗り換え 中山駅へ向かいます。お疲れさまでした。

帰路 JR 相模線・下溝 12:44~12:58 橋本(JR 横浜線)13:01~13:21 中山 13:29~13:36 センター南
JR 相模線・下溝 13:04~13:18 橋本(JR 横浜線)13:21~13:41 中山 13:47~13:54 センター南



相模川展望広場



単線のJR相模線 下溝駅ホーム



相模川の河川敷の眺望 (大風の会場らしいです)

① 軍都相模原から緑豊かな緑蔭都市へ

相模原は、戦前 軍都相模原と言われ、陸軍の施設が集中していた地域でした。戦後は一転して相模原市は他の都市がうらやむほどの平坦広大な用地を継承して、緑豊かな緑園都市に変貌させました。

地理的には相模原公園とその周辺は、相模原台地と呼ばれる西を流れる相模川による扇状地が隆起してできた台地で、江戸時代以来、養蚕を主産業としてきました。

この寒村が俄かに軍都として脚光を浴びるきっかけは、昭和初期の1930年代以降の陸軍士官学校はじめとする陸軍の中核施設の移転です。なお陸軍士官学校跡は座間キャンプ(アメリカ陸軍司令部、230ha:相模原170ha+座間60ha)になっています。

(なお、相模原公園26ha、麻溝公園45ha)

現在、メタセコイアの並木に囲まれ、花壇と噴水の配置により、息を飲むほど美しい欧風庭園と大温室のある一帯は、その昔、軍の射撃場の跡地で、機関銃や歩兵銃の射撃訓練に使われていた場所です。

このように厳めしい軍都から緑豊かな緑蔭都市へ変貌した模様は、平成4年に開催された「第9回全国都市緑化大会」で全国に生中継され知れ渡りました。この公園の見所は、(隣接する「麻溝台公園」も含めて) 第1に高さ38mの展望塔からの眺望、第2にフランス式庭園と大温室の熱帯植物園です。第3に6月中旬に見頃を迎える花菖蒲園の花ショウブです。

② 「相模原沈殿池」と「横浜水道」事始め

台所の蛇口を捻れば安心安全な水がほとばしります。

横浜の水は赤道を超えても腐らず、うまさを保つ水として外国船の間で人気があるとされています。

相模原公園の西隣の小高い丘に登ると、遠く丹沢山塊の下に広大な池が見られます。

横浜貯水池とありますが何故横浜なの？と一瞬不思議に思う。

その答えは公園からの帰途、女子美術大のバス停に向かう小道に掲示されている横浜水道の歴史を語る解説に書かれています。ここ相模原は近代横浜水道の通過点で、先刻眺めた池はその重要施設だったので

(以下解説板から)

「この水道みちは、津久井郡三井村から横浜村の野毛山浄水場まで44kmを結ぶ我が国最初の水道として1887年(明治20)敷設された。

鉄管や資材運搬用にレールを敷きトロッコを使用して導水管を敷設した」

横浜市の水道は、日本初の近代水道として、明治20年(1887)10月に給水開始された。開港時わずか100戸程度の村だった横浜の人口は日に日に増加し市街は急速に発展しました。当時の人々は水を求めて井戸を掘ったが、海を埋め立てて拡張してきた土地のため塩分が多く飲み水には不適でした。おいしい水は行商の水売りに依存していました。

そこで神奈川県知事は英国人技師ヘンリー・スペンサー・パーマーを顧問に迎え、明治18年に相模川上流に水源を求め近代水道建設に着手し、明治20年10月に給水を開始しました。

小松崎